

(仮称) 土浦市立上大津地区統合小学校建設候補地についての
提言書 (案)

令和 4 年 月

(仮称) 土浦市立上大津地区統合小学校施設整備等検討委員会

◇ はじめに

土浦市においては、平成29年11月に土浦市上大津地区小学校適正配置検討委員会が設置され、令和2年11月に土浦市上大津地区小学校適正配置実施計画（「以下「適正配置実施計画」という。）が策定されました。

その後、令和3年11月には、（仮称）土浦市立上大津地区統合小学校（以下「統合小学校」という。）の建設候補地として、土浦第五中学校西側とする案（以下「原案」という。）に基づき、（仮称）土浦市立上大津地区統合小学校整備基本計画（案）（以下「基本計画（案）」という。）が策定され、「小学校・中学校・地域の連携により、子供たちの成長を支えていく学校」をコンセプトとした学校と公民館の複合化の方針が示されました。

しかしながら、近年の上大津地区における国道354号線での渋滞の深刻化や交通事故の多発など、子供たちを取り巻く環境が大きく変化してまいりました。

このような状況を踏まえ、市においては、令和4年8月1日に（仮称）土浦市立上大津地区統合小学校施設整備等検討委員会（以下「検討委員会」という。）を設立し、子供たちの安全でより良い教育環境の整備のため、「安全性」、「効果的な小中一貫教育」、「経済性」などの視点から検討を行い、慎重な審議を重ねてまいりました。

この提言書では、検討委員会が議論してきた意見等を集約し、統合小学校の位置としてふさわしい条件を整理したうえで、統合小学校の新建設候補地について提言するものです。

今後、教育委員会において建設場所について判断していくことと思われませんが、その際、本提言書で述べました検討委員会の結論を十分に踏まえていただけますよう、お願いいたします。

土浦市教育委員会 教育長 入野 浩美 殿

令和4年 月 日

（仮称）土浦市立上大津地区統合小学校施設整備等検討委員会委員一同

目 次

1. 統合小学校の候補地としてふさわしい条件	・ ・ ・ ・ ・ 1
2. 統合小学校建設候補地の検討について	・ ・ ・ ・ ・ 1
3. 統合小学校建設候補地についての提言	・ ・ ・ ・ ・ 3
4. 統合小学校建設候補地選定にあたっての配慮事項	・ ・ ・ ・ ・ 3
5. (仮称)土浦市立上大津地区統合小学校施設整備等検討委員会 委員名簿	・ ・ ・ ・ ・ 4

1 統合小学校の候補地としてふさわしい条件

土浦市においては、平成30年度より全市的に小中一貫教育を実践していますが、さらにそれを推進するためには、統合小学校は土浦第五中学校に近ければ近い程、効果的な小中一貫教育が可能になるとの考え方が示されておりました。

しかしながら、現在、神立小学校においても他の小学校と遜色のない小中一貫教育が実施されていることから、中学校からの距離が500mを超えたとしても、効果的な小中一貫教育は可能であると考えられます。

従って、統合小学校の候補地については、中学校との距離よりも、むしろ子供たちの通学路の安全確保を最優先に検討すべきと考えます。

また、敷地造成等に係る経費を抑えられる土地であること、さらには、通学バスの運行に係る経費が抑えられることも重要だと考えます。

- 通学路の安全性
- 効果的な小中一貫教育
- 費用の抑制

これらの条件を十分に検討していくことが必要です。

2 統合小学校建設候補地の検討について

新候補地については、原案を含め、(A) ダイユーエイト西側案、(B) 上大津東小学校北側拡張案、(C) 上大津東小学校東側案の4箇所について、比較検討を行いました。

検討に当たっては、近年の上大津地区における国道354号線の交通量の著しい増加や交通事故の多発等、候補地周辺を取り巻く事情が従前とは大きく変化していることから、通学路の安全確保については最優先すべきだと考えます。

この通学路の安全対策を含め、これまで検討委員会で何度も議論されてきた以下の事項について、評価の視点及び項目としました。

◎評価の視点及び項目

(1) 通学路の安全対策

- ①国道354号線を徒歩で横断することになる児童数

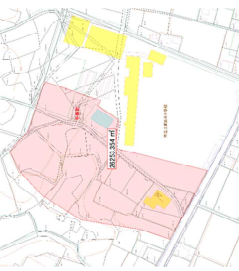
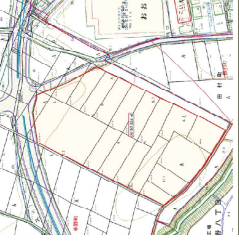
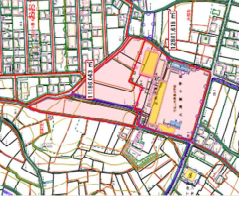
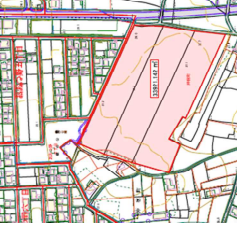
(2) 小中一貫教育

- ①土浦第五中学校との効果的な小中一貫教育の推進

(3) 経済性

- ①事業費
- ②通学バスの運行費

(仮称) 土浦市立上大津地区統合小学校建設候補地比較表

	原案 五中西側	A案 ダイユーエイト西側	B案 上大津東小北側拡張	C案 上大津東小東側	評価	
候補地					評価	
通学バス乗車人数	186	87	160	160		
通学バス必要台数	大型2、中型1、小型4	小型5	中型2、小型4	中型2、小型4	○	
通学バス年間経費	34,500千円	22,000千円	26,200千円	26,200千円	○	
R354の横断者	R354外側に徒歩通学が190名弱	R354外側に徒歩通学が100名弱	R354外側にほほバス通学	R354外側にほほバス通学	◎	
経済性	用地買収	1.7億円	1.5億円	0.8億円	用地買収	2.5億円
	造成	3億円	3.2億円	1.2億円	造成	3.4億円
	新築	35億円	35億円	31億円	解体+新築+改修	35億円
	インフラ整備 (公民館複合化含む)	4億円	3億円	2億円	インフラ整備	1億円
	合計	43.7億円	42.7億円	35.0億円	合計	41.9億円
※ 盛土した場合	追加8億円					
小中一貫教育	義務教育学校のような施設一体型に近いレベルで実施できる	五中との距離が近いためこれまでより効果的に実施できる	これまでどおり実施できる	これまでどおり実施できる	○	
周辺環境	住宅地、農地、林地	林地、調整地	住宅地、農地	住宅地、農地		
周辺道路幅員	遠足等の際に大型バスに対応できる	遠足等の際に大型バスに対応できる	遠足等の際に大型バスについては調整が必要	遠足等の際に大型バスに対応できる		
土地の状況	校地、畑 (高低差あり)	林地 (高台に位置する)	校地、畑 (高台に位置する)	畑 (高台に位置する)		
購入面積	25,000㎡	26,500㎡	11,200㎡ (総面積:24,000㎡)	34,000㎡		
地権者数	12	13	4	1		
農地転用	手続きが必要 (3種農地)	手続き不要	手続きが必要 (3種農地)	手続きが必要 (3種農地)		
林地開発許可	手続き不要	許可申請は適用除外・協議は必要	手続き不要	手続き不要		
埋蔵文化財包蔵地	試掘・調査が必要	包蔵地に隣接しているため試掘が必要	試掘・調査が必要	試掘・調査が必要		
道路の切り直し	要 (下水道共)	不要	要 (下水道共)	不要		
上水道/下水道	あり/あり		あり/あり	あり/延長が必要		
地形・造成関係	高低差のある地形 8m程度	ほほフラットな地形	ほほフラットな地形	ほほフラットな地形		
校舎等整備方法	新築+既存五中プール利用+公民館複合化	新築	新築+解体+既存建物改修 (長寿命化)	新築		
その他						

3 統合小学校建設候補地についての提言

前頁の比較表を基に、検討委員会において審議した結果、(1) 通学路の安全対策については、国道354号線を横断し通学する児童に対し、通学バスにより安全確保が図れること、また費用においても原案に比べ安価であること、(2) 小中一貫教育については、これまでどおり効果的に実践できること、(3) 経済性については、他の案と比較して大幅に支出を抑えることが可能である等を踏まえ、総合的に判断し、検討委員会としての統合小学校建設の新候補地は、B案の

『上大津東小学校北側拡張』

とすることが望ましいという結論となりましたので、提言いたします。

4 統合小学校建設候補地選定にあたっての配慮事項

検討委員会として、新候補地案を示すにあたり、あわせて留意していただきたい点について次のとおり提案します。

統合小学校建設に際して、考慮していただくよう望みます。

○子供たちの通学路の安全確保、特に国道354号線の交差点を徒歩通学となることのないよう、通学バスの運用について配慮いただきたい。

○スクールバスの利用料金については、引き続き無料としていただきたい。

(仮称) 土浦市立上大津地区統合小学校施設整備等検討委員会 委員名簿

区 分	氏 名	所属団体役職名等
上大津地区代表者	瀧 正教	上大津ブロック会会長【委員長】
統合対象小学校のPTA代表者	花田 潔司	上大津東小学校 PTA 会長
	斎藤 千春	上大津東小学校 PTA 副会長
	松浦 笑美	上大津東小学校 PTA 副会長
	鈴木 崇裕	菅谷小学校 PTA 会長
	吉田 由紀子	菅谷小学校 PTA 副会長
	桂木 弥代恵	菅谷小学校 PTA 副会長
土浦第五中学校のPTA代表者	大久保 修一	土浦第五中学校 PTA 会長
統合対象校の学区の区長	武井 秀一	田村町地区長
	小野 豊	手野町地区長
	土肥 操	沖宿町地区長
	田中 信昭	神立東一・二丁目地区長
	富岡 秀彰	白鳥町地区長
	北條 里美	白鳥新町地区長
	野口 健次	菅谷町地区長
	廣子 貴彦	おおつ野地区長
統合対象小学校の校長	筑井 喜久男	上大津東小学校 校長
	稲生 文子	菅谷小学校 校長
土浦第五中学校の校長	出谷 浩一	土浦第五中学校 校長